

広報 鳥海の里

題字 開成支援課かえで寮 沢 口 金 男さん

第123号 平成17年6月15日

発行 秋田県心身障害者
コロニー保護者会

保護者会事務局

TEL(0184)32-1082 FAX(0184)32-1083

生産品直売所「歩人」TEL(0184)33-4310

地域生活サポートセンター「歩人」TEL・FAX(0184)32-0123

秋田県心身障害者コロニー

秋田県由利本荘市西目町出戸字孫七山3の2

TEL(0184)33-2255 FAX(0184)33-2044

ホームページアドレス <http://www.fukinoto.or.jp/colony> E-mail colony@fukinoto.or.jp

金浦町

桜見物



白光支援課
ひまわり寮の皆さん



主な内容

創生支援課つづじ寮の皆さん

*新任のあいさつ……………2

*定期人事異動 ……………… 3~4

*苦情解決について……………5

*次世代家族懇談会 ……………… 6~7

*スナップ・利用者の動き……… 8

花より……



新任のあいさつ



管理 者
伊藤繁

管理者の伊藤です。よろしくお願ひします。利用者が安心して生活できる、明るく元気なコロニーを創ります。

平成十七年度の運営方針に基づき、次の重点事項を推進します。

- 1 利用者支援サービスがより高いレベルで提供できるよう、(高次標準化システム)の浸透を図るとともにこれが、円滑に機能するための内部監査やマニュアルの見直し、改善を行います。
- 2 グループホームを増設し、利用者の地域生活移行を推進します。
- 3 施設事務・事業の見直しを図ることにより、効率的な予算執行に努めます。
- 4 組織の統廃合や職員の適正配置を行い、安定的な運営基盤を確立します。
- 5 地域交流の推進

地域の幼稚園・学校、老人クラブ、介護施設等と交流を高め、園祭等に各種ボランティアを受け入れる等、相互交流を推進します。

最後に今年度、重点的に取り組む事業について述べます。

平成十八年度から、指定管理者制度がスタートすることから、引き続き、管理運営ができるよう、指定に向け最大限の努力をします。

利用希望者の円滑な受け入れに努める他、アセスメントに基づいた個別支援計画の実行を本人家族の合意の基に行います。

またマニユアル等を改善し、サービスの質の向上を図ることとします。

健康管理の充実

利用者が高齢化している現状から、診療所を中心とした健康管理やリハビリの充実をお願いし、併せてご多幸を祈念して、あいさつとします。

おわりに保護者、地域の皆さんのご協力をよろしくお願いします。

総務部長

多賀谷 良博



支援部長

岩崎時雄



四月の保護者会
総会の時は桜はまだ蕾で肌寒く、今年の春は遅くなる
と思つていましたが、五月に入るとある
いう間に田植えが始まり、今西目の田んぼでは稻苗が気持ちよさそうに風にゆられています。その中を一年間車で通勤していると稻の生長や収穫などで四季を感じられ、非常にゆったりとした気持ちになります。

勤務は十年ぶり三度目となります。私が例え通勤の途次、コロニー開設当初から様相が変わり隔世の感があります。

前回もそうでしたが、着任して最初に手にした本は、昭和五十一年六月に編集された「鳥海の園五十年のあゆみ」でした。平均年齢若干二十四歳の若者たちが、利用者と職員併せて七百余名の「新しき村」作りに挑戦した貴重な記録集です。どのレポートからも当時の大変な労苦が忍ばれる一方で、あふれるばかりの情熱とエネルギーが、随所に滲み出て気が引き締まる思いにさせられます。そして、コロニー存在の意義を改めて考えさせられるのです。

三十四年の歳月を経た今、時代の変化に伴つて国の施策が変化し、知的障害を持つ方々への福祉も、コロニーのあり方も大きく変貌しようとしています。

だからと言つて、利用者の幸せな生活が保証され、自ら望む生活を享受できる権利に変わりはないはずです。果たして利用者の皆さんに安心して暮らしていただけるサービスを今後も提供していくのでしょうか。

今を正念場と心得、この福祉の大革命に挑戦していきたいと決意を新たにしております。

この四月から総務部長として勤務しております。私にとってコロニー開設当初の利用者や先輩職員が、いつの日か花咲くことを願つて植えた望海の丘の桜、これまで見事に育つていたかと驚きつつ「確かにこの木々一本一本に利用者一人一人の名札がつけられていたはず」と、久方ぶりに遠い記憶を回帰させられました。

前回もそうでしたが、着任して最初に手にした本は、昭和五十一年六月に編集された「鳥海の園五十年のあゆみ」でした。平均年齢若干二十四歳の若者たちが、利用者と職員併せて七百余名の「新しき村」作りに挑戦した貴重な記録集です。どのレポートからも当時の大変な労苦が忍ばれる一方で、あふれるばかりの情熱とエネルギーが、随所に滲み出て気が引き締まる思いにさせられます。そして、コロニー存在の意義を改めて考えさせられるのです。

三十四年の歳月を経た今、時代の変化に伴つて国の施策が変化し、知的障害を持つ方々への福祉も、コロニーのあり方も大きく変貌しようとしています。

だからと言つて、利用者の幸せな生活が保証され、自ら望む生活を享受できる権利に変わりはないはずです。果たして利用者の皆さんに安心して暮らしていただけるサービスを今後も提供していくのでしょうか。

今を正念場と心得、この福祉の大革命に挑戦していきたいと決意を新たにしております。

平成十七年度 職員定期人事異動についてお知らせします

(平成十七年四月一日付)

転入

転出



園内人事異動

(平成十七年四月一日付)

退職

(平成十七年三月三十一日付)

所屬・職名	氏名	管 理 者	創 生 支 援 課 長 表 佐	管 理 課 主 査	総 務 部 長	白 光 支 援 課	赤 光 支 援 課 長 表 佐	銀 杏 支 援 課 長 表 佐	開 成 支 援 課
三浦 勝雄	三浦 勝雄	高橋 省子	佐々木 義広	長谷部 清二	佐々木 義広	主査	主査	主査	主査
兒玉 準治	兒玉 準治	高橋 省子	伊藤 洋子	斎藤 洋子	伊藤 洋子	主査	主査	主査	主査
佐々木 義広	佐々木 義広	佐々木 義広	田中 千鶴子	山田 ケイ子	田中 千鶴子	主査	主査	主査	主査
高橋 清二	高橋 清二	高橋 清二	江口 智美	高橋 智美	江口 智美	主査	主査	主査	主査
長谷部 清二	長谷部 清二	長谷部 清二	柳原 美保子	高橋 美保子	柳原 美保子	主査	主査	主査	主査
三浦 勝雄	三浦 勝雄	三浦 勝雄	松本 戸塚	松本 戸塚	松本 戸塚	正	正	正	正
佐々木 義広	佐々木 義広	佐々木 義広	正	正	正	正	正	正	正



歓迎のあいさつ ひまわり寮 伊藤由美子さん



新任職員あいさつ会

苦情解決について (お知らせ)



コロニーでは平成13年4月1日から、苦情解決事業を実施しておりますが、この度の定期人事異動により担当者に入れ替わりがありましたのでお知らせします。

「苦情解決制度」とは、利用者や家族のみなさんからの苦情や相談を受け、適切な福祉サービスを安心して利用できるよう支援する仕組みです。

受付担当者・苦情解決責任者と第三者委員の紹介

〈直通電話〉	〈受付担当者〉	〈苦情解決責任者〉
創生園 (Tel 0184-33-4530)	小笠原栄子・小原 辰矢	塚本 勝司 (支援課長)
銀杏園 (Tel 0184-33-4531)	磯部 愛子・阿部 正紀・土井恵利子	金森 真 (支援課長)
赤光園 (Tel 0184-33-4533)	畠山 京子・福田誠一郎	小松田香代子 (支援課長)
白光園 (Tel 0184-33-4534)	加藤 陽子・遠田 泰秀	高橋 次男 (支援課長)
開成園 (Tel 0184-33-4536)	近藤 浩・高橋美喜子	吉原まり江 (支援課長)
事務所 (Tel 0184-33-2255)	藤原 政広	多賀谷良博 (総務部長)

〈第三者委員〉 堀江 剛弘 (由利本荘市社会福祉協議会評議員)

由利本荘市西目町沼田字新道下2-366 Tel 0184-33-3251

池田千紗子 (由利本荘市議会議員・西目町手をつなぐ親の会会長)

由利本荘市西目町西目字潟保62 Tel 0184-33-3721

苦情の受付は直接、電話、書面などにより、各園の苦情受付担当者が随時受付します。
なお、第三者委員に直接苦情を申し出ることもできます。

苦情とは

- 例えば・希望しているサービス（援助）が受けられない
・利用者が困っていることがある
・〇〇職員の対応に問題がある
・是非改善してもらいたいことがある
…などです。

以上のような仕組みになっておりますので苦情や要望がありましたら気軽に各課受付け担当者に連絡してください。また、ご不明の点は各支援課及び総務課にお尋ねください。



平成16年度は162件の相談が寄せられました。具体的には利用者間のトラブルによる苦情が最も多く、個別にじっくり話し合うことで解決することができました。

今後も苦情相談がしやすい雰囲気作りとコミュニケーション能力を高める努力をしていきます。

去る四月十六日、定期総会終了後、第三回次世代家族懇談会を開催いたしました。

第3回 次世代家族懇談会

～地域で生活するといふこと～



講師に、秋田大学教育文化学部助教授の内海淳先生をむかえ、「障害があつても地域で住み続けるためには」と題して基調講演をしていただきました。

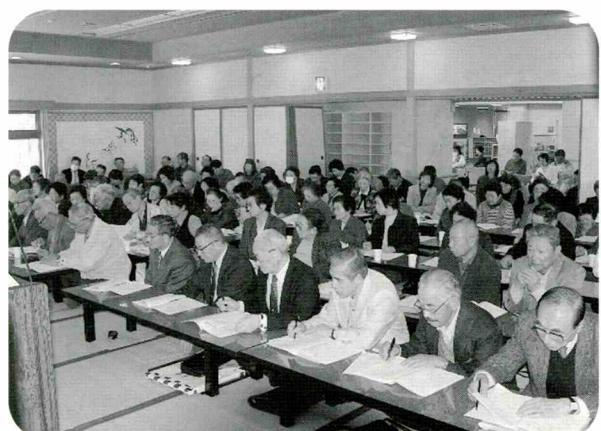
内海先生は、障害者の進路・社会参加に関する研究を手がけられている他、県県大会でのシンポジストおよび本人

長和田光子さん（現高清水園児童指導課長）をコーディネーターとして迎え、地域生活を進めるにあたっての課題や地域移行支援のあり方、地域との関わり方などについて確認し合いました。

発表内容の一部を抜粋して紹介いたします。

シンポジウムでは、前企画調整課長和田光子さん（現高清水園児童指導課長）をコーディネーターとして迎え、地域生活を進めるにあたっての課題や地域移行支援のあり方、地域との関わり方などについて確認しました。

講演では、本人たちは何を望んでいるのか、福祉改革の方向性はどのようになっているか、地域生活をするためにはどのような支援が必要かなど貴重な話をうかがうことができました。



グループホーム「あおぞら」
世話人 高橋 民子さん

ホームの入居者は、男性四名で二名の方が車イスを利用してあります。

整った施設とは違い、民家を借りての生活ですので、不便をかけるのではないかという周りの心配をよそに本人たちは、静かで、ゆっくり休める自分の部屋がもてたという喜びの方が多いかったです。

生活のうえで心配なことは、タバコを吸う方が一名おりますので、必ずタバコの始末には気をつけるよう常に声かけしております。

また、健康管理についてですが、



入居当時は食べる量が少なく好き嫌いも多く、特に野菜は残してしまいました。貧血の薬を飲んでいる方もおりましたので私なりに調理に工夫し、バランスを考えながら作りました。今では貧血も治り、以前から比べると量も多く何でも「おいしい」と食べてくれるようになりました。

休日は、地域行事に参加するなど、地域の方々とふれ合い、地域生活に慣れるような環境作りにも心がけてきました。

今では、散歩中にあいさつや「車に気をつけて」など声をかけてもらったりと地域の皆さんから温かく見守つていただいております。

これからも、四人がいつまでもホームで頑張れるよう中途半端な思いやりではなく、入居者の気持ちを考え、常に一人一人に目を向け、声をかけながら見守つていきたいと思います。

コロニーのグループホームは八か所あるのですが、障害の程度が軽い方だけでなく、いろいろな障害を持っている方々も地域で楽しく暮らししております。何十年も施設で生活してきた方が高齢になって地域の中に行くということは、本人なりに苦労があつたと思います。その中の一人、Mさんについてお話し致します。

グループホームバックアップ施設
創生支援課サポート職員

三浦 朋子



Mさんは今年で六十一歳になります。コロニーで約三十年を過ごし、体験ハウス、自活訓練を経て昨年四月よりグループホームでの生活が始まりました。自活訓練を開始した当初は、すべてにおいて消極的な面が多くつたのですが、実習先では周囲の方々から積極的に声をかけてもらうことで次第に仕事を覚え、職場にも馴じむことができ、自信につながつたようです。

現在は、地元の小規模作業所でボランティアやダンボールの組立て

Mさんの弟さん夫婦のことば
障害者でも地域に住めるようになつたんですね。良かったです。

姉は、言葉は話せませんけれども表情を見れば本人が楽しいのか、嬉しいのかが良くわかります。遠く離れて暮らしている自分たちより、毎日姉の側にいて支援してくださっている方々が、一番本人を理解してくれていると思つています。高齢であることなど心配も多々あります。どこにいても、姉がいきいきとした毎日を送ることを望んでいます。

自分が遠くにいるためなかなか会いに行くことができませんが、できる限りの協力をしたいと思っております。

作業を頑張つております。ホームでは食事の後片付けや掃除など「自分たちで出来ることは自分たちで」と積極的に行つてます。

またホームに移つてからは言葉ではつきりと意思表示ができるようになりました。

施設ではなかなか味わうことができなかつた家庭的な雰囲気の中で、毎日の生活を十分に満喫しているところです。

グループホームバックアップ施設
創生支援課職員 小笠原栄子

創生支援課では、重度高齢者棟の位置づけをされており、医療ケアを必要な利用者も多い中で、昨年度、男女一棟ずつのグループホームを立ち上げました。私たちは、高齢であるとか、生活能力が欠けているからとか、健康面に心配があるからと切り捨てずに、不足部分をどのように支援していくたら地域生活ができる

だろうかと、地域生活移行に対する意識を変えていきました。利用者の方々が一年でも二年でも地域生活ができるべきなと思ったようになつたのです。（中略）地域生活移行については、本人の希望はもとより、家族の了解があつてはじめて実現します。初めは、どの家族も「もし、地

域生活には地域住民の理解が必要です。その架け橋となるのが私たちバックアップ施設職員の仕事だと思っています。世話人さん、サポートセンター職員、地域の方々と共に「楽しくて良かった」と言つてもらえるような支援をしていきたいと思います。

福祉サービスの向上を目指そう!!

高次標準化システム 平成十六年度自己評価を実施

利用者に提供したサービスのレベルを把握し、今後のサービスの質の向上に向け、六月と十一月に多面的視野から全職員による自己評価を実施しました。

評価結果を踏まえ、生活環境の整備、グループホームの世話人の育成と災害への支援体制、ボランティアの育成、緊急時への対応訓練、日常生活支援サービス、プライバシーへの配慮など三十八項目について各支援課やコロニー全体で取り組む課題を確認し合いました。

域生活に失敗したら誰が受け入れてくれるんだ」という心配が優先されましたが、地域生活に適応できなくなつた時はコロニーを利用してもうことを話して了解をいただいた次第でした。

グループホームに移行して一年になりますが「コロニーに帰りたい」という利用者は「人もおりません。

ありがたいことに「大変だからやめたい」という世話人さんもおりませんでした。

地域生活には地域住民の理解が必要です。その架け橋となるのが私たちバックアップ施設職員の仕事だと思っています。世話人さん、サポートセンター職員、地域の方々と共に「楽しくて良かった」と言つてもらえるような支援をしていきたいと思います。

スナップ・ひとこま



○Xクイズに挑戦
思いがけず1位に。
満面の笑です



せーの

全速力…



ヤッター！

ボウリング
競走



くじ引き1等賞!!
自転車当つ
ちゃいました

由利本荘市西目潟端町内運動会に参加しました

野外昼食会

～望海の丘～



晴天の下で

さくら寮・あやめ寮の皆さん

善意

大仙市 佐々木静子様

(故 文昭さんの保護者)

銀杏園すずらん寮
三月三十一日付
田原喜三郎様

坂本美千幸さん

山内村

(故 勇藏さんの保護者)

銀杏園からまつ寮
伊藤 福美さん

大仙市 有明

(有明邦子さんの保護者)

由利本荘市 海士剥簡易郵便局様

開成園からまつ寮
今野 正幸さん

利用者の動き

《入所》
三月二十五日付

開成園あやめ寮
田口タヨ子さん (美郷町出身)

三月二十四日付

銀杏園けやき寮
鈴木 正喜さん (秋田市出身)

四月一日付

白光園ひまわり寮
近江 和枝さん (金浦町出身)

四月一日付

銀杏園すずらん寮
鈴原みな子さん (由利本荘市出身)

四月七日付

開成園かえで寮
田中 一史さん (秋田市出身)

四月二十日付

銀杏園すずらん寮
斎藤 朝仁さん (由利本荘市出身)

四月二十五日付

開成園かえで寮
加藤 勝さん (秋田市出身)

五月三十一日付

銀杏園すずらん寮
藤原治子さん (秋田市出身)

六月一日付

銀杏園けやき寮
沼田 大さん (秋田市出身)

退所

水戸 昭悦さん
銀杏園からまつ寮から

開成園さくら寮へ

小玉 金則さん
開成園さくら寮へ

開成園さくら寮から

創生園ふじ寮へ

畠本さよ子さん
開成園さくら寮へ

白光園こすもす寮
畠山 真美さん(家庭復帰)

開成園さくら寮
佐藤 富雄さん
グルーブホームへ

銀杏園はまなす寮
有明 邦子さん(長期入院)

開成園さくら寮
今野 正幸さん

開成園さくら寮
大槻 幸治さん

開成園さくら寮
高橋 幸子さん

開成園さくら寮
柳原 伸子さん

ご冥福をお祈り致します

◇利用者
けやき寮 藤原 寒さん (五十九歳)
◇保護者
あざみ寮 多田 瑞子さんの母
すみれ寮 佐藤ツマさんの保護者
ひまわり寮 大橋 幸子さんの母
はまなす寮 亀井川良子さんの母
君子さん 君子さんの母